

努力事項 その9 (中学校)

「学校教育指導の重点」の美術の努力事項をひとつずつ考えていきます。今回は、学習指導要領の内容に照らして、以下について考えてみます。

それぞれの学年において、描く活動とつくる活動のいずれも経験できるように題材を設定し、調和のとれた指導計画を作成しましょう。

これは、どういうことなのでしょう？

これは

「描く活動（スケッチや絵、グラフィックなデザイン、立体の表面に描くことを含む）」

と

「つくる活動（彫刻、工芸、立体的デザイン）」

のいずれも経験させるようにして、「描く活動」と「つくる活動」の学習に著しい偏りが生じないようにしましょう。また、様々な表現活動に親しめるように全体として調和のとれた指導計画を作成しましょう。

ということです。

具体的には下の表のようになりますが、「第1学年」と「第2学年及び第3学年」で取扱いに違いがあります。

	第1学年	第2学年及び第3学年
ねらい	表現の能力を幅広く身に付けるため	より質の高い学習を目指すため
配慮事項	特定の表現分野の活動のみに偏ることなく、「A 表現」(1)及び(2)それぞれで(3)と関連付けて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うこととされています。	各学年において内容を選択して行うことが可能とされており、2学年間ですべての事項を指導することとされています。 その際、学習の内容が偏らないように、第2学年及び第3学年の各学年で「A 表現」の(1)及び(2)の双方を扱うようになっています。また、「A 表現」全体を通して描く活動とつくる活動を一度は行うようになっています。 そして、2学年間で「A 表現」(1)及び(2)それぞれで(3)と関連付けて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うようになっています。 つまり、第2学年で(1)で描く活動を計画した場合には、(2)ではつくる活動を計画し、第3学年では(1)でつくる活動、(2)で描く活動を計画することになります。

	第1学年	第2学年及び第3学年
特 徴	年間45時間という時数ですべてを扱うので一般的に一題材に充てる時間数は少なくないと考えられます。	より質の高い学習を目指しているので、一題材に時間をかけて指導する必要があります。そのために、各学年で内容を選択して行うこととし、2学年間をかけてすべての事項を指導することとしています。
その他	ねらいとする資質や能力を育成するために必要となる画面の大きさや時間数などを十分に考えて題材を検討する必要があります。第1学年の目標を実現するために、比較的短時間ででき、効果的に表現の能力を身に付けられるような題材を適宜取り入れ、指導計画を作成しましょう。	第2学年及び第3学年のいずれの学年でも、(1)及び(2)の双方と、描く活動とつくる活動の双方の学習を経験するようになりますので、調和のとれた指導計画を作成し、描く活動、つくる活動それぞれの能力が高められるようにしていきましょう。

上記の表に基づいて作成した「A表現」の指導計画の作成例です。参考にしてください。

○作成例A

A 表現	(1) と (3)		(1) と (2)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○
第2学年	○			○
第3学年		○	○	

○作成例B

A 表現	(1) と (3)		(1) と (2)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○
第2学年		○	○	
第3学年	○			○

(※ 中学校学習指導要領解説美術編 指導計画の作成と内容の取扱い P.73を参考にしています。)



今回は、小学校の努力事項「児童一人一人の思いやもてる力が十分働くように、各内容を関連付けたり一体的に扱ったりできる幅のある題材を設定し、指導計画に位置付けましょう。」について考えてみます。

9月20日（金）頃アップの予定です。